

菊池寛實先生顕彰碑について



この顕彰碑は昭和四十八年二月、馬頭中学校の校舎が新築されたのを記念して、当時の天生目順一郎馬頭町長を委員長とする菊池寛實翁顕彰碑建設委員会が先生の功績をたたえるため建立したものです。碑文題字は当時の横川信夫栃木県知事が書いたものです。

(1)この碑文によると、先生は明治十八(1885)年、旧馬頭町の健武に生まれ、長じて東京法学院(現中央大学)に学び、その後実業界に入りました。さまざまな困難を乗り越え、昭和十五年には茨城県の高萩市で炭鉱会社を設立。その後三十数社の会社を設立し、日本実業界の重鎮として業界各層から尊敬されました。

(2)幼少の頃から進取の気性に富み、正義感の強い人でした。教育にも熱心で屋敷内に大心塾という塾を設立し、青年を集め教育し、また大学への進学希望者には援助を惜しみませんでした。

(3)また旧馬頭中、武茂中、小砂中の3中学校を統合して、新馬頭中を建設する時には、前後三回にわたりたくさんのお金や物品を寄付し建設事業の完成を援助しました。

(4)この地に四千六百平方メートル余の敷地を造成し、総工費二億八千万円余の建設費で、鉄筋コンクリート3階建て、4600平方メートルの近代的校舎や屋内体育館の完成の基礎をなしました。

(5)この他、母校健武小学校への財政援助や県立馬頭高等学校

校への当時としては珍しい自動耕耘機など新鋭の農業機械をはじめ諸設備の寄付をしました。さらに当時の馬頭洋裁学校へはミシン数十台などを寄付しました。また、近隣6町村に自動耕耘機を寄付し農業の機械化や商工業の発展のため馬頭信用組合の設立にも協力しました。

菊池寛實(きくち ひろみ)略伝

一八八五(明治一八)〜一九六七(昭和四二) 那珂川町健武出身、父武夫は旧馬頭町町長。下野中学(現作新)卒。東京法学院(現中央大学)中退。菊池三兄弟といわれ兄一徳の日本炭鉱、弟戸部光衛の戸部炭鉱と並び高萩炭鉱を経営。その他帝国石油など二〇数社の経営にも参与。また茨城県潮来町の水郷観光開発にも尽力(中略)。さらにこの間、郷里馬頭町や事業地高萩市などに地域教育と産業発展のため多額の資金を寄付した。

(下野新聞社「栃木県歴史人物事典」)

